

Hem21 NEWS

財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **18** 平成21年
(2009) 11月

CONTENTS

- 1~2 ▶ 兵庫自治学会研究発表大会
- 3 ▶ 「多自然居住地域の集落問題を考える」フォーラム
- 4 ▶ ごころのケアセンター 研究員紹介
- 5~7 ▶ 人と防災未来センターニュース MiRAi
- 8 ▶ 情報ひろば

管理部

研究調査本部

人と防災未来センター

ごころのケアセンター

学術交流センター

兵庫自治学会研究発表大会を開催



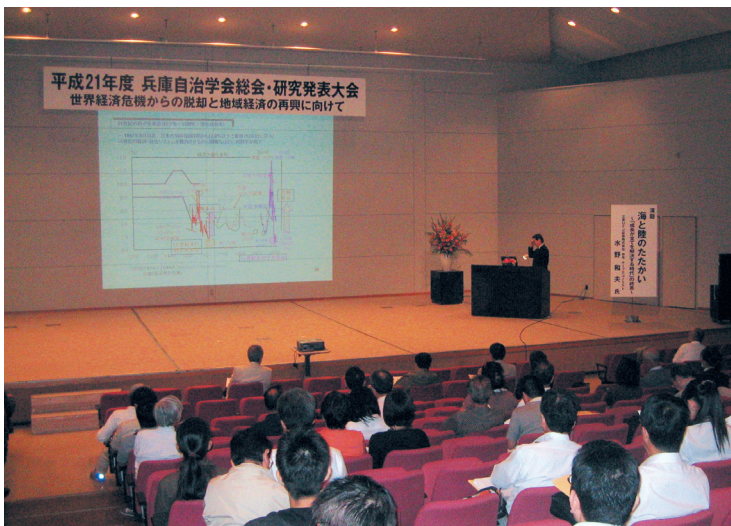
10月3日、「世界経済危機からの脱却と地域経済の再興に向けて」を大会テーマとして、兵庫自治学会研究発表大会が兵庫県立大学神戸学園都市キャンパスで開催されました。午前は講演会、午後からは6つの分科会に分かれ会員等による研究発表があり、約200名が参加。今なお影響を及ぼし続けている世界経済危機から明らかとなったさまざまな問題点をグローバルな視点から分析し、その結果得られた知見から日本経済ひいては地域経済の立て直しのために今後どう対処していくかについて、議論を深め、考えました。

開会に当たり吉本知之 兵庫県副知事から来賓あいさつがあり、自治体職員が公務に従事しつつも熱心な研究・交流活動を行っていることに対し激励されました。また、政権交代が示した国民の意思を考えると、今まで通りのやり方を続けていたのでは信頼を得ることはできず、適切な説明責任、情報公開が強く求められていくことになっていくであろうことから、自ら考えて行動していく職員を支援するという兵庫自治学会の役割に対する重要性と期待を述べられました。



吉本副知事

全体会(講演会)



全体会の様子

午前中の全体会では、『海と陸のたたかい～「成長が全てを解決する時代」の終焉～』というテーマで三菱UFJ証券株式会社 参与チーフエコノミストの水野和夫氏の講演がありました。賃金の上昇を伴わず、原油価格等の変動費に大きく左右される景気回復といった日本経済の構造を分析するとともに、リーマンショックにより海の国(米国)がもたらした新自由主義は終わりを告げ、21世紀におけるグローバル化による陸の国(EU、ロシア、中国)の挑戦が始まったとの説明は、行政職員が見落としがちな視点を気付かせてくれる有意義な講演であったとの声も多く好評でした。

分科会

午後からは6つの分科会に分かれ、29名の会員等(グループ含む)が日ごろの研究成果を発表し、活発な議論が交わされました。学識者、県の幹部がコーディネーター等を務め、研究活動をさらに深めるためのアドバイスを行うとともに、的確な問題提起を行い、会場参加を含めたディスカッションも行うなど、発表者・参加者の主体的な政策形成活動につながるよう支援しました。今大会では、NPO関係者、企業関係者、大学院生などからも発表があり、行政職員にとどまらず一般県民にも行政政策への関心が高まってきていることが感じられました。

また、兵庫自治学会の資金助成を受けて研究に取り組んだグループからの研究成果報告もあり、会員、一般参加者を問わず有意義なものとなりました。

	コーディネーター（学識者）	アドバイザー（行政幹部職員）
第1分科会 地域経済・地域産業	兵庫県立大学経済学部 教授 加藤恵正	兵庫県企画県民部 政策室長 畑 正夫
第2分科会 産業システム・技術	兵庫県立大学経営学部 教授 當間克雄	兵庫県産業労働部 政策労働局長 楠見 清
第3分科会 協働・地域づくり	甲南大学文学部 准教授 宮垣 元	兵庫県企画県民部 政策参事 中塚則男
第4分科会 安全・安心	京都大学防災研究所 准教授 牧 紀男	兵庫県企画県民部防災企画局長 木村博樹 兵庫県農政環境部環境管理局環境影響評価室長 神田泰宏
第5分科会 教育・福祉	関西学院大学人間福祉学部 教授 芝野松次郎	兵庫県健康福祉部 こども局長 真木高司
第6分科会 地方行政	関西学院大学経済学部 教授 前田高志	兵庫県企画県民部企画財政局長 太田和成 兵庫県企画県民部企画財政局新行政課長 田中基康



分科会の様子

交流会

分科会終了後、大学食堂にて交流会が開催され、学会役員、発表者、一般参加者等が交流を深め、ネットワークづくりに役立てました。

資料コーナー

会員等からの各種イベント・取り組み等を紹介する資料コーナーを設置しました。

兵庫自治学会とは…

県政および県内市町行政の振興と地域の発展のために、行政や地域に関するさまざまな課題について研究し、課題解決のための政策形成能力の向上と、組織や職種を超えた幅広いネットワークづくりを目指している団体です。兵庫県職員、市町職員をはじめ、学識者、NPO関係者など約1,200名が加入しており、毎年秋に会員の研究活動の成果を発表する研究大会を開催しています。

なお、(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構では、平成20年4月1日より学術交流センター内に兵庫自治学会事務局を置いており、会員等の政策形成活動を支援しています。

「多自然居住地域の集落問題を考える」フォーラムを開催

開催
日時

平成21年9月14日(月) 13:30~16:30

開催
場所

兵庫県民会館11階パルテホール(神戸市)



出席者

山崎 亮(ひょうご震災記念21世紀研究機構主任研究員、studio-L代表取締役)
上谷俊道(養父市八鹿町岩崎地区むらづくり委員会会長)
中瀬 勲(ひょうご震災記念21世紀研究機構上級研究員、兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科長、兵庫県立人と自然の博物館副館長)
中塚雅也(神戸大学大学院農学研究科助教)
畑 正夫(兵庫県企画県民部政策室長)

内容

当機構では、2006年度から2008年度にわたり「多自然居住地域における安全安心の実現方策」研究に取り組んできましたが、その研究を踏まえて、9月14日に、「多自然居住地域の集落問題を考える」と題するフォーラムを神戸市の兵庫県民会館で開催し、約90人が参加しました。そこでは、多自然居住地域の集落における課題とその対応策について、集落住民、学識経験者、自治体関係者と意見交換を行いました。

多自然居住地域の集落問題について山崎主任研究員から報告があり、続いて養父市岩崎地区のむらづくりについて上谷会長から報告がありました。これらの報告をもとにして、中瀬上級研究員のコーディネートのもと、出席者との意見交換が行われました。山崎主任研究員が提言した集落診断士や集落支援機構について、以下のとおり意見が出されました。

- 農村に都市住民を呼び込むという発想だけでなく、農村住民に都市へ来てもらって何かできないかを考える必要がある。ファーマーズマーケットなどはその一形態だろう。ただし、農村は声をかければいつでも農作物を持って都市へ行けるとは限らない。急に声をかけてもらっても作物が揃わないことのほうが多いことも注意が必要である。
- 多自然居住地域に関する政策や事業を実施する際は、住民への説明でメリットだけでなくデメリットの可能性についても示唆すべきである。知られていなかったデメリットを体感した住民は、徐々に行政の施策や事業に対する不信感を募らせることになるだろう。
- 集落の担い手を外部に求める際、まずは住民の親類から考えてみるべきだろう。息子世代は戻ってこなくても孫世代が戻ってくるかもしれない。それを検討しつつ、Iターン者の都市からの移住を促進させるということを考えるべきである。



上谷俊道氏

○集落運営のリーダーにはパフォーマンスとメンテナンスの2つの側面(PM)が求められる。まずはPを発揮して住民を引っ張っていく必要があるが、ある程度までくるとMを発揮して住民が活動しやすいように条件を整える役に回る。ひとりのリーダーが両方を担うのもいいが、Pは外部からのアドバイザーが担い、Mは住民リーダーが担うという役割分担をしてもいいだろう。

○集落に若い人が入ることは、その人に集落のことを説明するというだけでも集落住民の活力に結びつく。若手の集落サポーター、それを支える集落診断士、そして集落支援機構という三段構えで少しでも多くの集落を支援したい。



DV被害や相談に取り組んで

主任研究員 高田紗英子

今春4月に着任してから、はや半年以上が過ぎました。大学時代はアメリカで心理学を専攻し、帰国してからは大学院でも、より専門的に、臨床心理学を学んできました。大学院では、特に、虐待を受けた子どもの心理療法について深く、広く学ばせていただき、その中でも性的虐待を受けた子どもに対する司法面接の在り方をテーマに研究会をつくり、シンポジウムを開催したことが思い出に残っています。

現在も、児童養護施設や児童思春期外来のあるクリニックで臨床心理士として勤務しております。さまざまな背景を持つ子どもたちと出会っていく中で、ときには苦しい思いをすることもありますが、一緒に時間を過ごす中には、必ず「つながった」と思える瞬間があり、それをさらにつなげていくために、日々子どもたちと接しています。



そういった過程を経て、

今年の4月からこころのケアセンターに勤務することになりました。当センターは、私が修士課程に入ったばかりのころからとても興味があったところなので、今回採用されたことは大変うれしく思っています。私が所属している第3研究部門では、主に虐待、DV(ドメスティックバイオレンス)など、反復性のある出来事に遭遇した個人を対象とする、トラウマ、PTSDの治療法や対処法に関する研究を行っています。同じ第3研究部門の牧田潔主任研究員は、長期研究において高齢者虐待の調査に取り組んでいます。私は短期研究において、一般女性を対象にDV被害や相談に関する実態調査を行うことになり、目下取り組んでいるところです。また、研究以外にも、週に1回相談室に入らせていただいて、電話相談やカウンセリングを行っています。

大学院のころから臨床ばかりをやっていたので、いざ研究員として働くことに最初は難しさを感じ、センターの方々にはいつも教えていただいていたばかりですが、今後も微力ながら努めてまいりたいと思います。臨床か研究か、そのどちらかではなく、臨床も研究もできる心理士を目指して、これからも邁進したいと思っておりますので、ご指導、ご鞭撻のほど、何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

特別展

「ジブリの絵職人 男鹿和雄展」 同時開催「3びきのくま展」

■会期=12月8日(火)~2010(平成22)年2月7日(日)

■観覧料=一般1,400(1,200)<1,700>円

大高生1,000(800)<1,240>円

中小生 500(400)<650>円

※()は20人以上の団体割引料金、< >はコレクション展セット割引料金

◎休館日=月曜(祝日の場合は翌日)、12月31日、1月1日

◎開館時間=10時~18時(特別展開催中の金曜・土曜は20時まで)※1月2日(土)は除く

※入場は閉館の30分前まで

TEL 078-262-0901 <http://www.artm.pref.hyogo.jp>



「とりの外」背景画(1988年) ©1988三馬カ-G

JICA兵庫/国際防災研修センター

2010年1月「防災月間」イベント

JICA兵庫/国際防災研修センターは、阪神・淡路大震災15周年を迎える2010年1月を「防災月間」として位置づけ、さまざまな防災イベントやセミナーを実施します。

<防災パネル展示>(入場無料)

■テーマ=世界の自然災害と復興の歩み(仮称)

■期間=1月5日(火)~31日(日) ■場所=JICAプラザ兵庫(広報展示室)

<世界の保存食ランチ>(有料)

■期間=1月4日(月)~31日(日) ■場所=JICAプラザ兵庫(食堂)

<防災イベント・セミナー>(参加無料)

■場所=JICA兵庫ブリーフィング室ほか

*世界のTAKIDASHI(炊き出し)シンポジウム&フェア

■開催日=1月16日(土)<予定>

*国際協力入門セミナー 映画鑑賞会「WITH~若き女性美術作家の生涯」

■開催日=1月23日(土)<予定>

*イザ!カエル「大」キャラバン! in JICA兵庫(仮称)

■開催日=1月31日(日)<予定>

※日時・詳細は、JICA兵庫ホームページ<<http://www.jica.go.jp/hyogo/>>でご確認ください。

●問い合わせ

JICA兵庫/国際防災研修センター

TEL 078-261-0386(平日のみ) Eメール jicahic-drlc@jica.go.jp

国際連合地域開発センター(UNCRD)防災計画兵庫事務所

設立10周年記念

国際防災シンポジウム「持続可能な地域開発に向けて」

UNCRD防災計画兵庫事務所が開設されて今年で10周年を迎えます。本シンポジウムでは、その歩みを振り返りながら、災害時に脆弱な存在となる得る人々(女性、子ども、障害者や高齢者)に配慮した災害リスクの軽減の在り方、コミュニティ防災、そして安心安全なまちづくりに向けた世界各国のさまざまな取り組みに関する各国からの発表、河田恵昭先生、伊藤滋先生の基調講演やパネルディスカッションが2日間にわたって実施されます。

皆さんも一緒に安心安全なまちづくりを考えてみませんか?

■日時=11月27日(金) 13時~17時15分

11月28日(土) 10時~16時30分

■会場=読売こうべホール(神戸元町、読売神戸ビル2階)

■参加費無料・日英同時通訳付き・定員200名

●申し込み・問い合わせ

UNCRD防災計画兵庫事務所

FAX 078-262-5568 Eメール rep@hyogo.uncrd.or.jp

<http://www.hyogo.uncrd.or.jp/>



東南海・南海地震等に関する連携プロジェクト

人と防災未来センター主任研究員 奥村与志弘

管理部

研究調査本部

人と防災未来センター

こころのケアセンター

学術交流センター

関西・四国の自治体と人と防災未来センターは、今世紀中の発生が確実視されている東南海・南海地震というスーパー広域災害に備え、「東南海・南海地震等に関する連携プロジェクト」を平成19年度より実施しています。プロジェクトの概要をHem21 (vol.14)でご紹介してから約半年が経過しました。4年プロジェクトの折り返し地点を過ぎ、わたしたちは大きな転換点を迎えています。今回は、わたしたちが新たに進もうとしている「道」を皆さまにご紹介するとともに、わたしたちにとってうれしい出来事がありましたので、それについてご報告いたします。

官学協働で挑戦する「実践的研究」

阪神・淡路大震災以降、わが国の防災分野の研究は実践性が強く求められるようになりました。しかし、実践的な研究はしばしばその学術的価値が軽んじられる傾向にあります。人と防災未来センターはあくまで「実践性」にこだわり、学術的価値の確立を先導したい思いで積極的に実践的研究に取り組んでいます。官学協働で実施している「東南海・南海地震等に関する連携プロジェクト」はその中核的プロジェクトと位置づけています。

東南海・南海地震時における被災社会シナリオの構築

東南海・南海地震のようなスーパー広域災害における被害を軽減するためには、地方自治体の災害対応能力の向上が不可欠です。そこでは、複数の自治体や自治体内の関係部局、災害対応に携わる多くの関係組織が互いに連携できる体制を整えていく必要があります。本プロジェクトでは、東南海・南海地震時の統一された被災イメージの形成とそれに基づく組織間連携の在り方の提案を目指しています。平成19～20年度は、災害時の社会現象に通じる最新の研究成果と自治体職員が持つ現場の経験知を活用し、東南海・南海地震の発災後、被災地・被災者がどうなるか、自治体の対応がどうなるかについて被災社会の事象をフロー図にまとめてきました。

関西・四国の組織間連携に向けて

4カ年計画の2カ年が経過し、年度当初は今後のプロジェクトの進め方について議論を繰り返しました。その結果、今後は東南海・南海地震時の課題や最適な災害対応策を具体的に検討すること、連携に必要な利害関係者の参画を一層求めることの2点を重視することにしました。そして、残る2年のプロジェクトの目標を、複数の自治体や多くの関係組織が結集して議論することで初めて抽出できる東南海・南海地震時の課題や効果的な災害対応の在り方を明らかにすることにしました。昨年度まで作成してきたフロー図を基に、5分科

会を立ち上げ(救援物資や通常物資が来ない、有害物質が漏えいする、十分な医療が行えない、避難所に収容しきれない、京阪神を中心とする都市域の機能が低下する)、検討を進めています。

うれしいご報告

まずは1つ目のうれしいご報告です。現在のプロジェクトの前身とも言える「大都市大震災軽減化特別プロジェクト・防災研究成果普及事業(平成16～18年度)」(京都大学からの受託事業)の成果が、今年6月に1冊の本にまとめられました。タイトルは「巨大地震災害へのカウントダウン～東海・東南海・南海地震に向けた防災戦略～」(東京法令出版)で、これからの東南海・南海地震対策の方向性や研究の方向性について戦略計画としてまとめたものです。この本はこの事業に参加した近畿圏の若手の実務者と研究者から成るメンバー全員の成果です。近畿圏にとどまらず多くの実務者や研究者にとって、示唆に富んだ一冊になったと自負しております。



林春男・河田恵昭(監) 大大特成果普及事業チーム33(編)『巨大地震災害へのカウントダウン』東京法令出版、2009年。

次に2つ目のうれしいご報告です。現在のプロジェクトについての成果発表「東南海・南海地震時における関西・四国の被災社会シナリオ構築に関する検討」が第28回日本自然災害学会学術講演会で優秀であると認められ、平成21年度学術発表優秀賞を頂きました。このような形で本プロジェクトの経過報告が認められたことは、今後のプロジェクトの推進に大きな勢いを与えてくれました。関西・四国の実務者と研究者から成るメンバー全員で喜びを分かち合いました。



奥村与志弘・平山修久・浜田定則・河田恵昭 東南海・南海地震時における関西・四国の被災社会シナリオ構築に関する検討、第28回日本自然災害学会学術講演会講演概要集、pp.141-142、2009年。

第5回DRI防災セミナー・ 次世代語り部シンポジウムを開催



パネルディスカッション風景

人と防災未来センターでは、去る8月29日に兵庫県、県立舞子高等学校ほかとの共催で、「第5回DRI防災セミナー・次世代語り部シンポジウム」を神戸市中央区のラッセホールにて開催しました。

シンポジウムは、次世代に震災を語り継ぐ方法を確立することを目的としたものであり、子ども当時の経験を語る「ユース震災語り部」をはじめさまざまな世代の参加により、若者たちの語りの意義や今後の展開について世代を超えて語り合いました。また、シンポジウムは、阪神・淡路大震災15周年事業である「DRI防災セミナー」にも位置づけられています。

基調講演・コーディネーター：

諏訪清二（県立舞子高等学校環境防災科長・教諭）

パネリスト：荒井 勤（人と防災未来センター語り部・ひまわりオジサン）

小島 汀（県立舞子高等学校3年・ユース震災語り部）

新見侑子（神戸市外国語大学4年・CODE学生ボランティア）

矢守克也（人と防災未来センター震災資料研究主幹・京都大学防災研究所
巨大災害研究センター教授）

基調講演では、県立舞子高等学校の諏訪清二教諭が「語り継ぐ意味」と題して、震災を体験した若者が語る意味や、若者たちが語る場・手段をつくる必要性について訴えました。また、語る手段の一つの例として、6月に芦屋市立山手小学校で行われた「ユース震災語り部DVD」を活用した授業風景を上映しました。

パネルディスカッションでは、パネリストがそれぞれの立場から「語り」の意味を述べ、議論が展開され、「震災経験者が語り継ぐことで、震災を知らない人も影響を受けるとともに経験者の中でも『語り直し』が進んでいき、結果として震災の経験が広がっていく」ことが確認されました。

震災15周年は、震災の記憶のある子ども（高校生）がいなくなる節目でもあります。このため、人と防災未来センターでは、次世代に震災を伝えるユース震災語り部などの活動は、非常に大きな意義があると考えており、今後ともさまざまな人々と連携し、震災の経験と教訓を発信していく活動を続けていきます。



「ユース震災語り部DVD」を使った授業風景

合同資料展

『資料が語る阪神・淡路大震災の記憶と現在』開催中



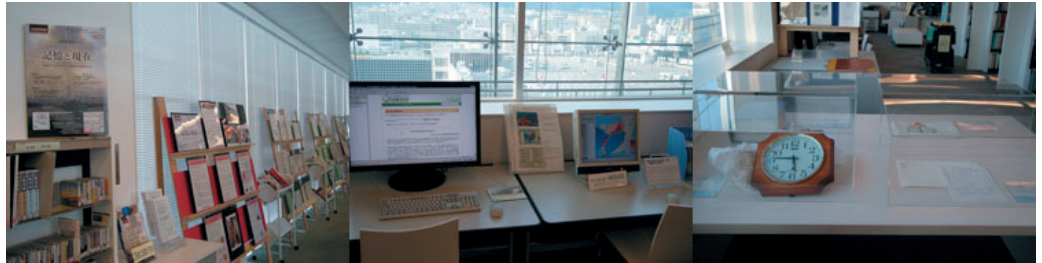
震災からもうすぐ15年が経過しようとしています。節目の年を前に、人と防災未来センター資料室と神戸大学附属図書館震災文庫（神戸市灘区）では合同資料展を2010年1月22日（金）まで開催中です。

震災文庫とは、これまでwebサイトで震災資料横断検索 (<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/eqb/crosssearch.html>) を可能にするなど連携を図ってまいりました。そして、今回初めて、合同企画展を実施することとなりました。

会場は、人と防災未来センターが防災未来館5階資料室（無料ゾーン）、神戸大学は社会科学系図書館です。双方の会場で、相互の資料がご覧いただけます。

この機会にぜひ両施設にお立ち寄りください。皆さまのお越しをお待ちしております。

人と防災未来センター 展示会場



神戸大学附属図書館 展示会場



●人と防災未来センター

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 防災未来館5階資料室

- 開室時間＝9時30分～17時30分
- 閉室日＝毎週月曜（祝日の場合は翌平日）、12月29日～1月3日
- 問い合わせ＝TEL 078-262-5058
- <http://www.dri.ne.jp/>

●神戸大学附属図書館 社会科学系図書館2階展示コーナーおよび震災文庫

神戸市灘区六甲台町2-1

- 開館時間＝月曜～金曜11時～17時（祝日、12月28日～1月4日を除く）
- 問い合わせ＝TEL 078-803-5313
- <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/eqb/>

（財）ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約／TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

- 開館時間** 9時30分～17時30分（入館は16時30分まで）
 ※7月～9月は9時30分～18時（入館は17時まで）
 ※金曜、土曜は9時30分～19時（入館は18時まで）

入館料金

区分	大人	高校・大学生	小・中学生
防災未来館	500円(400円)	400円(320円)	250円(200円)

※（ ）は20人以上の団体料金
 ※障害者、兵庫県内在住の65歳以上の高齢者は上記の半額
 ※兵庫県内の小・中学生はココロカードを提示すれば無料

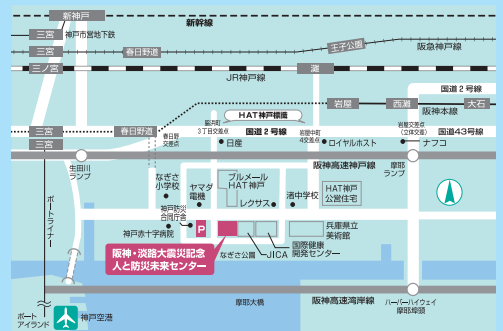
休館日

毎週月曜（月曜が祝日の場合は翌平日）、12月31日と1月1日
 ※ゴールデンウィーク期間中（4月28日から5月5日まで）は無休

交通

- 鉄道**
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
 - ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
 - ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- ・三宮駅前から約15分
- 車**
- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
 - ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
 - ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

- 有料駐車場（普通車100台）
- バス待機所（予約制／無料）あり



学術交流センター

兵庫自治学会のご案内

兵庫自治学会とは、県政および県内市町行政の振興と地域の発展のために、行政や地域に関するさまざまな課題について研究し、課題解決のための政策形成能力の向上と、組織や職種を超えた幅広いネットワークづくりを目指している団体です。兵庫県職員、市町職員をはじめ学識者、NPO職員など約1,200人が加入しています。

■入会するとこんなメリットが!

- ① 著名な方々の貴重な話が聞けます!あなたの企画も実現できます!
- ② 資金助成を受けて研究活動ができます!
- ③ 日ごろの研究成果を発表でき、優秀な発表は施策化の可能性もあります!
- ④ 学識者の指導・助言を受けることができます!
- ⑤ 研究や交流に関するさまざまな情報が得られます!
- ⑥ 人的ネットワークを広げることができます!

■学会の主な事業

1) 研究発表大会

全体会、分科会、交流会といった構成で、毎年秋ごろに開催しています。

全体会では、全国的に著名な講師をお招きし、時流に即した講演またはシンポジウムを行い、分科会では、会員の方々による日ごろの研究成果の発表や意見交換などを行っています。

2) グループ研究応援事業

グループで行うさまざまな地域課題に関する研究活動に上限10万円までの助成を行っています。

▶対象者=5人以上で構成され、そのうち学会員が過半数を占めるグループ

3) コラボレーション・プロジェクト

会員が自主的に企画・開催する地域課題・行政課題等に関するセミナー等の企画を募集しています。上限10万円までご使用いただけます。

▶対象者=①代表者を含む構成員の過半数が学会員である10名未満のグループ、または、②代表者を含む構成員の5名

以上が学会員である10人以上のグループ
4) 全米公共・行政学会(ASPAA)との交流
米国の行政実務家や学識者などで構成され、行政に関する学術の向上促進を目的とするASPAAとの交流を行っています。

■会員になるには

年会費2,000円。次のいずれかに該当する方ならどなたでもご入会いただけます。兵庫県職員、県内市町職員、県内に在住または在勤の学識者・NPO職員・個人

●問い合わせ

兵庫自治学会事務局
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
（財）ひょうご震災記念21世紀研究機構・学術交流センター内
TEL 078-262-5713・5714 FAX 078-262-5122
Eメール gakujuutsu@dri.ne.jp
<http://hapsa.net/index.html>

コラボレーション・プロジェクトの企画募集!

地産地消や地域通貨、まちづくりといった地域課題について、行政、NPO、地域などさまざまな人々とのコラボレーションによるプロジェクト(セミナー等)を企画してみませんか。上限10万円まで使用いただけます。

▶テーマ=地域に密着した課題、行政施策に関する課題等で、新しい時代を切り開くテーマとしてふさわしいもの

▶企画者=①代表者を含む構成員の過半数が学会員である10名未満のグループ、または、②代表者を含む構成員の5人以上が学会員である10人以上のグループ

▶主な開催スタイル=セミナー、パネルディスカッション、ワークショップ

●問い合わせ=兵庫自治学会事務局(上記に同じ)



Hem21NEWS vol.18

平成21年11月発行



(財)ひょうご震災記念 21世紀研究機構

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
(人と防災未来センター)

<http://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究調査本部

TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

●学術交流センター

TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・ご感想を機構までお寄せください

阪神・淡路大震災15周年関連事業掲示板

来年1月17日で、阪神・淡路大震災から15年になります。そこで、この掲示板では15周年の関連事業をお知らせします。

大震災教訓発信シリーズ“もっと伝えよう”

第9回DRRI防災セミナー

「災害の経験を“伝える”－震災資料が語る関東大震災と阪神・淡路大震災」

阪神・淡路大震災の記憶の風化が懸念される中で、今後100年、200年のスパンで震災の経験をどう伝えていくかは非常に大きな課題です。ここで参考になるのが、われわれが過去の大災害の経験をどう受け継いできたのかということです。今回のセミナーでは1923年の関東大震災における事例に学びつつ、阪神・淡路大震災の記憶を継承する媒体としての「震災資料」に注目します。

本年4月から震災の経験と教訓をこれまでも増して強く発信するため11回実施してまいりました「大震災教訓発信シリーズ“もっと伝えよう”」も今回が最終回です。皆さまのご参加を心からお待ちしております。



関東大震災の際の東京日本橋
([関東大震災写真集]東京婦女界社 1923)



長田区の被災状況
(山田和廣氏寄贈)

- ▶日 時=12月19日(土)13時~16時35分
- ▶場 所=人と防災未来センター1F ガイダンスルーム
- ▶定 員=120人
- ▶内 容

I. 基調講演

室崎益輝(人と防災未来センター上級研究員・関西学院大学総合政策学部教授)
北原糸子(立命館大学歴史都市防災センター教授)

II. 報告

矢田俊文(新潟大学文学部教授)
笠原一人(京都工芸繊維大学大学院助教)
高野宏康(神奈川大学日本常民文化研究所特別研究員)
司会:奥村弘(神戸大学大学院人文学研究科教授)

▶申し込み・問い合わせ

兵庫県防災企画課震災15周年事業担当
TEL 078-362-9874 FAX 078-362-9914
Eメール bousaikkakuka@pref.hyogo.lg.jp

企画・デザイン・編集・制作・新聞印刷・商業印刷・出版印刷・新聞広告・雑誌広告・SP・イベント・IT事業



小説、自伝、詩集など
あなたが書きになった原稿を
ご予算に応じた自費出版プランで
ご提案いたします。
また、各企業の記念誌等の
企画・プロデュースも
いたしております。
どうぞお気軽にご相談ください。

ホームページでは
作成までの流れや
概算見積も
ご覧いただけます

株式会社 神戸新聞総合印刷

☎078-362-7180

本社/〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-5-7
<http://www.kobepn-printing.co.jp/>

印刷物の企画プロデュースから編集・印刷まで、ニーズに合わせてトータルに手がけます。